

2017年2月号

(通算39号)

発行：平診9条の会

戦争法廃止を野党
と市民の共闘で！

「貧困と格差」がすすむ日本。政府による社会保障制度への攻撃はエスカレート。「大砲よりバターを」のスローガンがよみがえる。たかかってこそ輝く憲法25条、守らなくては。

課題はいっぱいありますが...

みんなで力を寄せ合おう！

1月23日、平診九条の会運営委員会を8名の参加で開催しました。初めに、「自衛隊冬季演習抗議行動の報告」を検査主任の高橋司さんが、「戦争体験を聞く12回目」を放射線技師の脇坂謙一郎さんが、学習「北方領土問題とは？」のミニ講演を事務の三宅翔太郎さんが行いました。さらに、看護師長の服部史子さんが「私の炭鉱遺産」の聞き取りについての提案をしました。盛りだくさんの企画で、それぞれについて意見交換を行いました。

●自衛隊の冬季訓練は今年が初めてかと思っただが、3年目とのこと。しかし市議会に通知が来たのは初めてとか・・・

●勤医協本部、勤医労本部そして滝川労連からも応援が来てくれて嬉しかった。横断幕は勤医労からのプレゼントです。ありがとう！

●三宅君や中田君の青年がマイクを握っているのもたくましい、頼もしい。

●戦争体験を聞くは「北方領土国後島からの引き上げ」、そしてミニ学習も「北方領土問題」でいいタイミングでした。

●領土問題というのは、歴史的経過を把握しないと理解できないので難しいですネ。しかも学校教育では近代史は学んでいない！

●三宅君のミニ学習報告お疲れさまでした。みんなで完成する講義も楽しかったです。

●「私の『炭鉱遺産』」の聞き取りは職員みんなでもやりましょう。

●難しく考えず、「どんな仕事をしてきたか」をお聞きし、生きてきた証(あかし)、思い出を語ってもらいましょう。

●炭鉱社会はやはり特殊です。地域全体が産業と一体化していた。でも閉山すると悲惨な地域になってしまう。

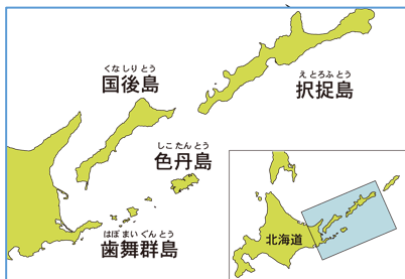
●看護師で話し合っただのですが、夜間診療の夜に、九条の会として「ランタンまつり」をして訴えていきたい。2月はじめの寒いうちに行います。皆で「いいね！」と合意しました。

■次回2月27日の学習テーマは 共謀罪(テロ等準備罪)についてとしました。ミニ学習の講師は、事務の中田智大さんとなりました。

ミニ学習

北方領土問題とは？

講師は事務 三宅翔太郎さん



■一般報道では、「北方領土」とは第二次世界大戦に絡み、ソ連(現在のロシア)が占領した歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の4つの島(北方四島)を指すとされている。■しかし、「北方領土」を4島に限ることに異論もある。それは、19世紀後半に日本・ロシアの平和的な交渉で千島列島全部が日本の領土と確定していたとするものだ。■第2次世界大戦では「領土不拡大」の原則(カイロ宣言 1943年)が連合国側で確認されていたが、終戦まじかの1945年2月にソ連・米国・英国の3国で「ヤルタ秘密協定」が結ばれる。それは、ソ連が対日参戦する見返りに「ソ連に千島全島をよこせ」と主張し戦後処理でソ連領となる。■一方、日本とアメリカなどと結んだサンフランシスコ講和条約(1951年)で日本は「千島列島の放棄」を宣言している。■現在、日本政府は千島の南半分(国後島・択捉島)と千島に含まれない歯舞群島・色丹島の4島の返還をもとめている。これは日本政府がサンフランシスコ条約で千島列島を放棄するという表明をおこないながら、1956年になって「国後、択捉は千島に含まれない」との見解を出し、歯舞・色丹と合わせて「北方領土」とし返還を求め始めた。■ロシアのプーチン大統領は「ロシアと日本の間には領土問題はない」と安倍首相との最近の会談で表明した。■しかし、安倍首相は何の反論もしないで、経済協力のみを合意した。これで領土返還はできるのか?!・・・ああ難しい・・・!

戦争体験を聞く 第12回

81歳男性のTさんから放射線技師の脇坂謙一郎さんが聞き取り、発表しました。(その要約です)



昭和10年3月5日、北方領土国後島泊村で、8人兄弟の三男として生まれる。昭和20年、当時小学5年生のときに終戦。翌年21年に母の姉を頼りに赤平市に移住する。

当時の生活は、エビ、ホタテ、カニなどたくさんとれた。他に食料の配給所からはイモや、でんぷんカスなどをもらっていたため、食事はとれていた。しかし着るものやお金はなく良い暮らしとはいえなかった。学校の制服も一つのクラスに2〜3着ほどしか届かず、くじ引きでもらえる人を決めたりしていた。戦争が終わって2〜3日後、ソ連軍が赤い旗を立てた大きな船に乗って国後島に来た。警察がソ連軍に武器を全て取られる様子を実際に見て、恐怖も感じたが、その光景すべてに圧倒された。当時はまだ子どもだったからよくわからなかったが、子どもながらに凄まじいことが起きていると感じた。Tさんは終戦後に赤平に移ったが、そのまま国後島に残った人もいた。残った人たちはソ連軍にものをたくさん奪われた。残った人たちは終戦後の方が今までより厳しい生活をしてきたようである。

赤平市に来てからは中学卒業、農家への出稼ぎを経て昭和29年に住友石炭に入社。仕事内容は主に採炭に関わり、平成2年に定年をむかえる。

北方領土問題について、北方領土は日本のものだと思う。日本はもっと早くに手を打つべきだった。今はもう自由に行き来できないからとてももどかしい。終戦後、一度も戻ったことがないので、もし自由に戻るならまた行きたい。

1月17日 自衛隊演習反対のスタンディング

18名(平診職員11名)、芦別道の駅



資料

これはバズーカ砲(対戦車ロケット弾)ですね。

カナディアンワールドで訴える堀毛所長



やはり、戦争準備の演習です!

日本共産党道議会議員団が自衛隊北部方面総監部に出した質問状に対する回答を見ると(抜粋)...

- ・隊員約300名、車両75両...
- ・小銃、機関銃及び拳銃を携帯(空砲・使用なし)...
- ・災害派遣訓練の一環ではない。冬季における能力向上を目的...
- ・今後も演習場以外での訓練を行う...



1月19日、芦別でのスタンディング、10名参加



訴える中田智大さん



平診代表で訴える三宅翔太郎さん

PKOで自衛隊を派遣している南スーダンでは、戦闘が各地で発生し「深刻な懸念」と国連安全保障理事会が表明しました。(1月23日)